

◆◆◆ 河口先生不当解雇事件 ◆◆◆

解雇無効の判決確定

最高裁が学園の上告を棄却

最高裁が理事会の上告を棄却し、東京高裁の判決が確定

最高裁判所は、2006年10月3日、河口央商先生ひらあきの懲戒解雇事件について、湘南工大理事会が東京高等裁判所の判決を不服として上告した訴えを棄却し、上告受理申立ても不受理とする決定を下しました。この最高裁決定により、河口先生に対する懲戒解雇は懲戒解雇事由が存在せず「無効」とし、「雇用契約上の権利を有する地位にあることを確認するとともに、賃金・一時金及び慰謝料の支払い等を認める」旨の東京高裁判決が確定しました。

理事会は直ちに河口先生を教壇・教授会に戻せ！

教職員組合は、理事会（糸山英太郎理事長）に対し、確定した東京高裁判決を直ちに履行し、河口先生を原職に復帰させ、教授会への出席ならびに講義等の教育・研究活動を他の先生たちと同じく完全に保障するよう申し入れています。最高裁によって確定した判決を無視して、来年3月末で定年退職となる河口先生の職場復帰、教授会・教壇復帰を遅らせるようなことは、決して許されない行爲です。

湘南工大のすべての教職員・学生のみなさん！

いま湘南工大理事会がなすべきことは、最高裁で確定した判決を厳粛に受けとめ、河口先生の前職復帰、教授会への出席、教育研究活動の保障をただちに履行することです。また、菊地先生の譴責処分も即刻撤回されなければなりません。

私たちは、湘南工大の教職員・学生のみなさんのこれまでのご支援に感謝するとともに、判決を履行させるために一層のご支援をお願いするものです。

湘南工科大学の解雇撤回闘争を支援する会

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-5-23 第1 桂城ビル 3F 東京私大教連内
TEL : 03-3208-8071 FAX : 03-3208-0430

最高裁決定を各紙が報道

10月5日の朝刊で、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞、神奈川新聞が報道しました。ここでは、毎日新聞、読売新聞、神奈川新聞の記事を紹介します。

読売新聞

湘南工科大（藤沢市）の教授が懲戒解雇は不当として、雇用関係の確認などを求めた訴訟の上告審で、最

「教授の解雇は違法」確定 大学側の上告棄却

高裁第3小法廷（藤田宙靖）は、大学側の上告棄却を決定した。決定は3月、交通費の不正受給を理由に教授の河口央商さん（66）を懲戒解雇した。

東京高裁は「不正受給の証拠がない。学外に放逐する目的だったと評価されてもやむを得ない違法な解雇」と結論づけていた。今年度で定年退職する河口さんは「現場に戻りたい」と4日、大学側に職場復帰を要望した。同大は「コメントはない」としている。

神奈川新聞

湘南工科大の教授解雇無効
最高裁で上告棄却
湘南工科大（藤沢市）は、堂西海岸、糸山英太郎理事長（元同大組合委員長）を不当に解雇されたとして、元同大組合員長の河口央商教授（66）が地位確認などを求めた訴訟で、最高裁第3小法廷（藤田宙靖裁判長）は四日までに、大学側の上告を棄却した。教授の地位を認め、慰謝料の支払いを命じた東京高裁判決が確定した。

原告によると、大学は一九八六年、組合員三人の教授昇格を認めず中央労働委員会から不当労働行為を認定された。大学は中労委を相手に二〇〇〇年、東京地裁に提訴。河口教授は中労委側の証人になり、その後、懲戒解雇された。高裁判決は「解雇は事由の存在が認められず無効」としていた。裁判を支援してきた東京地区私立大学教職員組合連合は「判決をたたきに履行し現職に復帰させ、教授会への出席や教育、研究活動を完全に保障するよう強く求める」とコメント。同大学は「コメントはない」とした。

毎日新聞



河口央商さん

最高裁が上告棄却
湘南工大側が敗訴
河口教授地位確認訴訟
湘南工科大（藤沢市）は、堂西海岸、糸山英太郎理事長（元同大組合委員長）を不当に解雇されたとして、元同大組合員長の河口央商教授（66）が地位確認などを求めた訴訟で、最高裁第3小法廷（藤田宙靖裁判長）は大学側の上告を棄却した。教授の地位を確認し、大学側に未払い賃金と慰謝料の支払いを命じた東京高裁判決が確定する。決定は3日付。

河口さんは教授会の承認にもかかわらず教授に任用されず、91年に県地方労働委員会に救済を申し立てた。02年、大学側

は河口さんをいったん懲戒解雇したが、教授任用差別と解雇無効の二つの裁判で敗訴が確定する。来年3月に定年退職する

河口さんは「教壇復帰の可能性がはばくなり残念だが、大学は正常化に向かってほしい」と話した。

【伊藤直孝】